

1 学校教育目標

21世紀に生きる、心身ともに健康で、思考力・判断力・行動力があり、自立し共生しようとする心情あふれた児童を育成するため、人間尊重の精神に基づき次の教育目標を設定する。 ○やさしい子 ○考える子 ○元気な子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・笑顔のある学校⇒夢や希望、笑顔での挨拶、お互いを思い合い感謝できる ・あたりまえのことを大切にできる学校⇒返事、学習規律、ルールとマナー ・互いのよさを学び合い、教師間協働ができる学校⇒協働意識による学年全体の向上、学校運営参画意識の高揚 ・地域・家庭に信頼される学校⇒生命の尊重、安全で衛生的な教育環境
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・やさしい子⇒思いやりの心で自他の存在を尊重し、互いの関わりの中で高め合える子 ・考える子⇒基礎・基本を身に付け、見通しと振り返りによって自らの学びを進められる子 ・元気な子⇒すすんで心身を鍛え、健康と安全について考えながら生活できる子
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・情熱と使命感をもって、常に子供を中心に据えた指導を展開する教師 ・子供の目線や立場に立ち、その子供の良さを引き出し、子供の自己肯定感を高める教師 ・社会や時代の要請を敏感に捉え、自己啓発に前向きな教師 ・教師間協働により、学校経営参画意識をもち学び育て合う教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

○【児童一人一人の基礎・基本の学力の確実な定着】「児童一人一人の基礎・基本の学力の確実な定着」を目指して、学力向上プランに基づいて取り組んできたが、年度末の目標達成には及ばなかった。学力ポートフォリオを活用した研究授業と研修会をもとに、全教員で検討・確認・共有を行いながら授業改善に努めることはできたが、さらに研究の成果を日常の授業準備や教材研究に具体的に色濃く反映させていく必要がある。漢字の読み書きや語彙の修得、朝読書、四則の計算練習、かけ算九九検定等を通じた基礎基本の徹底により、学年や学級間の学力格差というもう一つの課題改善に向けて組織的に取り組んでいく。

○【人権尊重」と「思いやりの心」の育成を通したいじめ防止】全学年児童による本校の特色である「あいさつ活動」、年間を通じて展開している「言葉づかい重点週間」は、児童が他者に対する自らの言動を振り返り、意識を高めるための有効な機会となっている。また児童が生活を共にする学級集団の望ましい成長は、いじめの未然防止や授業での学力獲得の土台となっていくものである。いじめの防止や個別に支援を要する児童の実態把握も含めて、前・後期に実施するQ U調査の結果には特に注視していきながら、学級集団の成長を促していく。

○【児童一人一人の体力の向上】昨年度の体力状況調査の結果において全国平均値を上回る種目は全学年で減少しており、特に低学年では大幅に減少した。日常的に運動に慣れ親しんでいる児童とそうではない児童との格差が生じているように思われる。今年度は、児童の運動習慣や体力についての実態調査に基づき、各学年の不得意種目を明確にしながら、その克服に向けて計画的な体力向上の取組を施していく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	「人権尊重」と「思いやりの心」の育成を通したいじめ防止	○	○	○	○	○
3	運動に親しみ体力の向上	○	○	○	○	○

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
児童一人一人の基礎・基本の学力の確実な定着		4月 区調査目標通過率 80% 年度末到達度診断通過率 80%				自己評価の際に記入			
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	指導方法の改善 学力ポートフォリオの活用	算数	研修 7月 12月 2月	○担任・専科・管理職 区調査、単元テスト結果から児童のつまずきを知り、つまずきを出さない指導の検討・実践を通して指導方法を改善する。	学習到達度診断 実施ごとに結果を報告	単元ごとに定着率 85%以上	自己評価の際に記入		
2 継続	つまずき補習	国語 算数	すっきりタイム 金曜日 年 30回 123年生 5校時 456年生 6校時	○担任・専科・管理職 ①4月の区調査結果から未定着な学習内容を補習する。(前学年のつまずき) ②単元末テストの結果から未定着な学習内容を補習する。(現行学年のつまずき)	学習到達度診断 実施ごとに結果を報告	①10月までに通過率 90%以上(区調査前学年) ②3月までに通過率 80%以上(区調査現学年)			

3 継続	PUタイム (朝学習)	算数 国語	毎週 火木金 朝 15分	○担任、学習支援員 音読、読書、読み取り、漢 字、AIドリル、東京BD	到達度診断正 答率	80%以上	自己評価の際に記入
4 継続	学校図書館 の活用	国語	①年間 朝読書 ②年間 の貸出 期間中	○児童 ①目標達成者を表彰。 強化旬間を年2回実施。 ②読書旬間に図書委員会と 連携し、味見読書など本に興 味をもたせる活動を行う。	読書記録カー ドに記録 貸出冊数記録	①月2冊 年24冊読書 ②児童一人当 たりの貸出冊数を 昨年度(27冊) 以上	
5 継続	ICT機器 の活用	全教科	① 週に 複数回 ② 週に 複数回 ③ 半期 に1回以 上	○教員 ①児童が児童用タブレット 端末を用いる授業を実施。 ②対象学年児童にAIドリ ルによる個別学習を実施。 ③プログラミング教育の実 施。	週の学習計画 教員の申告	・実施した教員 の割合各90%	
6 新規	学力向上 夕会の設置	算数 国語	毎週 火曜日	○教員 各学年からの学力向上に向 けた取組やその成果と課題 を日常的に情報共有し、学習 内容の系統性も意識しなが ら授業改善を図っていく。	月行事予定表 ・週案に明記	年間30回実施	

重点的な取組事項－2		「人権尊重」と「思いやりの心」の育成を通したいじめ防止		
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
友達に対して、いつでも優しい言葉かけ ができる。	言葉遣いアンケート「強い言い方や冷 たい言い方にならないよう気を付けて いる」の児童の割合が90%以上	自己評価の際に記入		

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
心の教育を充実させる	<ul style="list-style-type: none"> 各々の違いが分かり、認め、生かしていける態度が身に付く QUでの学校生活満足群に属する児童が増える 	<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止対策の一環として、道徳授業を充実させる。 お互いの良さを認め合える学級活動を充実させる。 縦割り班活動での遊びや異学年との交流活動を行う。 オリパラ教育を通して国際理解、障がい者理解を深める。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自己評価の際に記入</div>		
挨拶・言葉遣いの意識を高める	<ul style="list-style-type: none"> すすんで挨拶ができる 場に合った言葉に気を付けて遣い分けができる 敬称をつけて名前を呼ぶことができる 	<ul style="list-style-type: none"> 指導の進捗を確認しながら教員の意識を高め、より良い方法を工夫させる 児童の挨拶運動を拡張する取り組みを企画・計画させる 			
特別活動を充実させる	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価で肯定的に評価できる 努力している自分を認めることができる 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の活躍の機会を増やし、自己肯定感・自己有用感を高める めあてをもって行事に取り組み、自己の取組について過程や結果を振り返らせる 			

重点的な取組事項－3 健康な体づくりと体力向上				
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
すすんで運動しようとする態度を育てる	<p>体力状況調査結果で全国平均を下回る種目数を、昨年(8種目)中5種目(平均)から4種目に削減する。特に全学年の男女で下回ったシャトルランとソフトボール投げについては体力向上委員会で具体的な策を検討していく。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自己評価の際に記入</div>		

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
体育授業の充実	・昨年度体力状況調査結果で全国平均を下回った種目を1種目減らす。	・めあてをもって体育の学習に取り組み、自己評価しながら運動を工夫するための「体育学習ノート」の実施率を向上させる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; display: inline-block;"> 自己評価の際に記入 </div>		
体力向上のための行事の充実	休み時間に校庭に出て運動に取り組む児童の数を増やす	・年間を通して運動が継続できるように体育的行事の内容や方法を改善するとともに、児童の主体的な活動場面を増やすよう工夫していく。			
運動に向かう環境づくり	運動する場に参加する児童数を増やす	・休み時間の中で友達と一緒に楽しく遊びながら体づくりができる学級あそびを企画して、その機会を増やしていく。			

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他（学校教育活動全般について）

自己評価の際に記入します。
 経営計画の策定段階では、このページは行数を減らして圧縮したり、ページ自体を削除したりした上で、公表していただいても差し支えありません。